

国際交流



ふれあいのひろば

第8号



桃太郎像の前で（プロブディフ）

草の根レベルの国際交流の進展を！

会長 小坂 淳夫

会員の皆様方におかれましては、平素から当協議会の活動に対しまして、格別の御理解と御協力をいただき、心からお礼申し上げます。

近年、わが国は経済的に目覚ましい発展を遂げ、国際社会から、経済力に見合う役割と貢献を求められております。

こうした中で当協議会におきましても、姉妹都市交流を通じ、また、「アジアの中の日本、アジアの中の岡山」という視点に立ち、近隣アジア諸国の人々を中心に、世界の国々の人々との交流を通じ友好の輪が広がるよう、国際交流活動を推進しているところであります。

昨年は姉妹都市プロブディフ市（ブルガリア共和国）と姉妹都市縁組を締結し20周年を迎えました。これを記念して、市と共に様々な交流事業を展開して参りました。

また、昨年5月には西川アイプラザに「友好交流

サロン」がオープンし市民と外国人の方々が気軽にふれあえる場として広く利用されております。当協議会としては、この「友好交流サロン」を利用しての交流事業を幅広く推進して参る考えであります。

さらに、国際交流祭も昨年は3年目を迎え『岡山あいフェスティバル'92』と銘打ち、30か国以上の国から集まった外国の方々と市民との国境を越えた草の根レベルの交流が一層進展いたしました。

当協議会としては、従来から実施している、ボランティア通訳・翻訳登録制度、ホームステイ・ホームビジット登録家庭制度等での皆様の御活躍の機会を増やすと共に、交流事業への積極的な御参加を賜り、協議会の活性化に取り組んで参りたいと考えております。

会員の皆様方におかれましては、今後とも当協議会の活動に対し、一層の御協力を賜りますようお願い申し上げます。

姉妹都市縁組20周年記念

岡山・プロブディフ



プロブディフ見本市を訪問

姉妹都市縁組20周年を記念し、同見本市へ岡山市より出展している岡山展示場を訪問、岡山を紹介する、582点余の展示物品と会場を見学。



プロブディフ市との姉妹縁組20周年を記念して、10月2日から12日間、安宅敬祐岡山市長を団長とする総勢54名がプロブディフ市を始めとする欧州各都市を訪問しました。一行は、10月3日～7日の間、ブルガリア共和国プロブディフ・ソフィア両市を訪れ、国際見本市訪問・日本大使館主催の日本文化週間に参加するなど各種の記念行事に参加し親善を深めました。

◀岡山・プロブディフ市民訪問団出発式

JR岡山駅にて岡山市・プロブディフ市姉妹都市縁組20周年記念事業実行委員会の喜多嶋委員長・花岡薫岡山市議会議長の激励を受け、団員一同、期待に胸を膨らませ元気に出発。



◀桃太郎像の除幕式

両市の友好を記念して寄贈された桃太郎像の安宅市長とトマシヤン市長によるテープカット。(プロブディフ市中央公園)

プロブディフ市主催歓迎レセプション

サンクト・ペテルブルグホテルで賑やかに行われたプロブディフ市主催のレセプション。



◀プロブディフ市長表敬訪問

安宅市長がプロブディフ市庁舎を訪問し、ガラベッド・トマシヤン市長を表敬訪問。

親善訪問団



◀そろばん教室

団員の4名の算盤指導者（全国珠算教育連盟岡山県支部：中川さん・西中さん・羽原さん・森田さん）による、プロブディフ高等数学専門学校でのデモンストレーション風景。

医学講演

団員の片山先生（岡山済生総合病院院長）により、プロブディフ市医学アカデミーに於いて「日本の医療制度及び成人病の現状について」の医学講演を行う。



①

岡山市・日本大使館主催公式レセプションでの訪問団担当行事

①訪問団員（岩田さん・江川さん・大森さん・小川さん・片山さん・加藤さん・中川さん・西中さん・羽原さん・森田さん・吉田さん）による茶道の実演。

②訪問団員（岩崎さん・佐藤さん・薄田さん・真野さん・三宅さん）による華道の実演後の記念写真。

②▶



◀安宅敬祐岡山市長へ栄誉賞の授与

岡山市・日本大使館主催公式レセプション（ホテル・トリモンチウム）において安宅市長へトマシャン市長よりプロブディフ市栄誉賞1級のメダル・賞状が授与される。



ホテル・トリモンチウム前での記念写真

岡山市・日本大使館主催公式レセプション後、プロブディフ市関係者と在ソフィア日本大使館田島大使（現ミャンマー大使）、大使館関係者及び団員一同による記念写真。



ブルガリアへの旅

—岡山・プロブディフ親善訪問団に参加して—

岡山済生会総合病院長
片岡 和男

岡山市がプロブディフ市との姉妹都市縁組20周年を記念して派遣する親善訪問団（団長安宅敬祐岡山市長）に参加した。東欧のヨーグルトの国ぐらしか知らない国への好奇心と、日本の医療についての講演を依頼されたことで、参加を決心した。

プロブディフ市はトラキア平原の中央に位置するブルガリア共和国第二の人口42万の都市で、6000年の歴史をもつ世界最古の町の一つである。異民族支配が続いた歴史を物語る遺跡が多く、また、この国際見本市は100年の歴史がある。一昨年、民主化への移行がスムーズにできたのは、自給自足の農業国であること、ほとんどが一民族一宗教であり、良き為政者を得たためらしい。

日本の都市との縁組は岡山市とプロブディフ市のみであり、日本を代表しての両市の交流は意義のあることである。中央公園での桃太郎像の除幕式、植樹、国際見本市での岡山フェア、生花、茶の湯、ソロバン教室の紹介が行われた。私は医学アカデミーに於いて、日本の医療保険制度、日本人の成人病について講演を行い、有意義な反響があった。

あと、ウィーン、ブタペスト、ローマ、ロンドンの視察を行い、有益な旅であった。



医学アカデミー学長(左から2番目)らと
(右から2番目が筆者)

「第48回プロブディフ国際技術秋期見本市」参加

9月28日から10月4日までの1週間、プロブディフ市内の国際見本市会場で国際見本市100周年を記念して「第48回プロブディフ国際技術秋期見本市」が開かれました。東欧を中心に、世界中から多くの企業が参加。日本からも、トヨタ、松下、キャノン等、およそ17の企業が加わりました。岡山市も姉妹都市縁組20周年を記念して、純日本風の展示場を出展、プロブディフ市民に姉妹都市・岡山を強く印象付けました。



岡山展示場

会場面積21平方メートル、岡山の物産・写真パネル等が展示されました。また、期間中、安宅敬祐岡山市長を団長とする市民訪問団一行、岡山商工会議所東欧経済視察団等の来訪があった。

◀国際見本市会場入口付近

会場面積45,000平方メートル(13,636坪)、12のパビリオンがあり、参加企業は280に上った。



プロブディフ市公式訪問団来日

プロブディフ市長ガラベット・トマシャン氏を団長とするプロブディフ市公式訪問団一行4名が昨年11月25日から12月3日の間来日しました。また、駐日ブルガリア大使館からコンスタンチン・グラバナコフ大使閣下、ニコライ・マリナー等書記官も来岡し、種々の歓迎行事や視察に一行と共に参加されました。



和太鼓の演奏に一層盛り上がる、
レセプション会場。

◀ 歓迎レセプションでは協議会会員をはじめ、市・商工会議所関係者等約100名が集い一行の来岡を祝った。



▶ 一行は後楽園・烏城の他、瀬戸大橋・倉敷等名所を訪れ、岡山に対する理解を深めた。
うらかな小春日和、『水辺のももくん』の前で記念撮影。



▶ 市長表敬訪問



◀ 交流協議に引き続き、両市長により『岡山市とプロブディフ市との交流促進に関する覚書き』を交換し、未長い両市の交流を誓いあった。また、岡山市からトマシャン市長に『岡山国際親善名誉市民証』が贈られた。

ブルガリア女子新体操選手を迎えて



岡山市・プロブディフ市姉妹都市縁組
20周年記念事業実行委員会

委員長 喜多嶋美枝子

岡山市プロブディフ市姉妹都市縁組20周年記念事業のハイライトとして女子新体操演技大会を開催することが出来ました。プロブディフ市より7名の選手と県体操協会藤原会長の御尽力で川本ゆかり、山田海蜂日本代表選手も招待し、豪華な顔ぶれによる演技大会となりました。2月7日は県下は勿論、遠く東京・九州より2500名の熱烈な体操ファンを集め、県体育館は熱気に包まれました。秋山エリカさんの名解説でバルセロナオリンピック9位のポボヴァ選手をはじめ、いずれ劣らぬ華麗な名演技に会場は酔いしれました。均整のとれた美しい肉体がボールやリボンなどの小道具を操りながらリズムカルに優雅に躍動する姿はまるで妖精達が踊るようで、会場はすっかり魅せられ惜しみない拍手が鳴り止みませんでした。華やかな演技を競うかげにあって日々の食事療法と練習には並々ならぬものがあることも知りました。育ち盛りの彼女達が口にするものは果物と野菜で、観光もおあずけで練習に明け暮れる様子を目のあたりにし、胸が痛む思いすらしました。彼女達が緊張から解放されたのは県立南高の高校生との交流の一時でした。演技指導後、手作りのケーキと手さげ袋をプレゼントされ、思いを記した色紙を交換する顔にやっとあどけない笑いが戻っていました。忘れ得ぬすばらしい演技をありがとう。



▲ 世界のトップレベルの華麗な演技に観衆はすっかり魅了された（於岡山県立体育館）



◀ 市長表敬訪問に可愛い妖精達は少し緊張気味？

▶ 高校女子新体操部員への演技指導（於県立南高）



▶ 歓迎セレブションは、カナレフ団長をはじめとする一行10名の他、秋山エリカさん、川本ゆかり、山田海蜂日本代表選手も出席し、盛大に開催された。



キロフ絵画展

プロブディフ市在住の画家ディミタール・キロフ氏の絵画展を2月12日から17日の間、西川アイプラザ4階展示コーナーで開催。会場には抽象画29点が展示され、多くの市民が『キロフの世界』を満喫しました。またこの間、キロフ氏は夫人と共に来岡し友好を深めました。

キロフさんの年賀状

岡山市・プロブディフ市姉妹都市縁組
20周年記念事業実行委員会

副委員長 難波 三郎

2月9日、キロフさんが奥さんのロザリアさんと一緒に岡山入り、18年ぶりに再会しました。

キロフさんは1975年、文化交流使節第1号として単身で来岡、2か月滞在されたご縁で交流が始まり、18年間年賀状だけは欠かしたことがありません。

キロフさんの年賀状は、メッセージと自筆の絵がセットになっていましたが、絵の中には、必ずキロフさんの顔と奥さんとおぼしき女性の顔のほかに、動物が描かれていました。最初の頃は気にもとめずにいましたが、そのうち描かれている牛、馬、竜などの動物が“えと”にぴったりということに気がつきました。

キロフさんが“えと”を理解し



キロフ氏からの年賀状



キロフ絵画展オープニング(写真右から二番目が筆者、キロフ氏は左から3番目)

たうえでのことか、偶然かということが、私の頭の中で長い間の謎となっていました。はからずも2月12日のキロフ絵画展の開会式でその謎がとけました。

挨拶のなかで、女性の顔は奥さんであり、動物の絵は日本の“えと”であることをキロフさんが明かしてくれました。18年前、箸しか使わず岡山にとけこもうと懸命の努力をしたキロフさんでしたが、短い滞在期間に、よもや“えと”まで理解していたとは。ただただ脱帽。

美しいヴァイオリンの調べ ~ピリアナ・パチコバ演奏会~



パチコバに見る国際交流の難しさ
岡山交響楽団 杉本 賢志

「今度は、ピリアナ・パチコバと共演するんだよ」「へえ～、それでそのパチコバとか言う人はその道では有名なんか」「そりゃそうだろう。ほら以前に明治ブルガリア・ヨーグルトのテレビコマーシャルにでてた若くて可愛い娘だよ」これは、演奏会の1か月程前の私と私の友人との会話である。私自身パチコバを見たこともなければ彼女のヴァイオリンの音を聴いたこともなかった。テレビコマーシャルさえ知らなかったのである。

それでも彼女の音楽とヴァイオリンの音色には大変な期待をしていた。結果は裏切られることなくすばらしいものであった。終演後の祝賀会では、団員からのサイン攻めや写真攻めにもしっかり答えていたようで、プロブディフ市との姉妹都市縁組締結20

ブルガリアが生んだ世界的なヴァイオリニスト、ピリアナ・パチコバ嬢が来岡。3月13日、岡山シンフォニーホールで岡山交響楽団と共演しました。

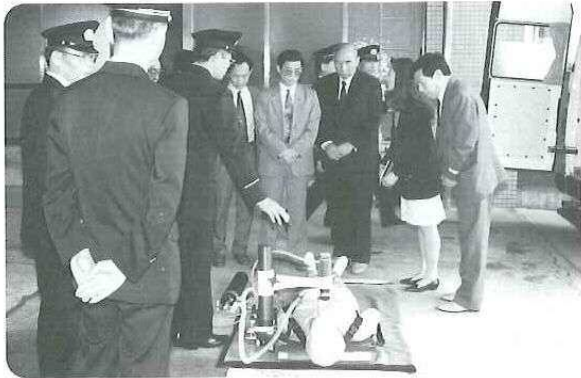
周年記念の企画としては大変良かったと思う。ただ非常に残念に思ったのは、演奏会のビデオテープを送る件で、ブルガリアの国内事情があまり良くなって、郵送等では確実に彼女に届くかどうか分からないということであった。国際交流の大切さと難しさを、改めて感じさせられた一コマでもあった。



素晴らしいソロを披露したパチコバ嬢

～友好都市から～ 「洛陽市友好訪日団」来岡

昨年5月11日、『洛陽市友好訪日団』が来岡。団員は周国華洛陽市副市長をはじめ外事弁公室・教育委員会・財政局・対外友好協会・計画委員会から構成される一行6名で、11日間の日程で岡山市内を中心に視察し、幅広い分野で理解を深めました。



▲ 岡山市北消防署にて高規格救急車並びに各種消防車を見学。はしご車の試乗に挑む団員はいなかったが、皆、一般の救急車と比較しながらの説明に熱心に聞き入っていた。



▲ 松下ビデオ工場では、部品から製品までを一貫生産しており、自動化で能率のよい生産ラインを視察。時折、足を止めては機械の敏捷な動きを熱心に見ていた。



▲ 岡山市民からの温かい歓迎に笑顔で応える一行。



▲ 中国の要人も訪れた瀬戸大橋にて。



▲ 洛陽市実験小学校と友好関係にある岡山市立平福小学校を訪問。三道一正校長を表敬後、体育館で行われた交歓会では児童らの可愛らしい歌や合奏に和やかな表情で応えていた。



▲ 5月12日に開館日を迎えた西川アイプラザ。その開館式典において、周国華洛陽市副市長が祝辞を述べた。4階友好交流サロンでは両市の『交流のあゆみ展』を見学。